当事者意識の復活を急げ

織田邦男

北朝鮮の独裁者金正恩が暴走を続けています。国際社会の非難にもかかわらず、6 回目の核実験を強行し、各種弾道ミサイルを発射し、日本列島を超えて太平洋上に着弾させました。

金正恩は「日本列島を沈没させる」「日本を焦土化する」と恫喝を繰り返しています。まさに戦後最大の危機なのですが、不思議なことに日本ではまるで他人事で危機感が伺えません。

この現象は何故なのでしょう。戦後の「吉田ドクトリン」にも一因があるようです。戦後日本は最も大切な国防を米国に丸投げし、金儲けに専念してきました。その結果、世界有数の経済大国になりましたが、同時に大切なものを失いました。 国家は国民一人一人の「義務と責任」から成り立っているという当事者意識です。

また戦後、GHQ によって「配給された自由」を謳歌し、「自由、権利」に付随する「責任、義務」の意識が極めて希薄になりました。「国家の運命を我がことのように思う」人、これが本来の「市民」という意味だと塩野七生さんは述べています。(「ローマ人の物語」)。国を背負っているのは我々だという当事者意識がない限り、国家の防衛も発展もありません。

その結果どうでしょう。「保育園落ちた。日本死ね！」という流行語に象徴されるように、国家はゆすりたかりの対象になり下がりました。若者は国家や社会に尽くす喜びも知らないまま無気力、無関心の怠惰な姿勢に堕しています。

人間は社会の為、国家の為になっていること実感したとき、真の幸せを感じます。災害派遣中の自衛官を見てください。我が身を省みず人を助けることを最優先にする隊員の目は輝いています。国家や社会に役に立っているのを実感したとき、個人と国家は一体化し、国家が一人一人の「義務と責任」で成り立っていることを自覚するのです。「国家を担うのは我々だ！」という当事者意識の復活が何より急務です。これなくして日本の未来はないのです。